

医学生のための最先端疾患研究入門：分子病態でつなぐ臨床と基礎

科目責任者：小川 覚之（先端医科学研究センター 分子病態研究室 室長・准教授）

I. 前文

本コースは、将来臨床の道に進んだ後も世界と伍して活躍できる研究力を育成するための医学研究入門です。「研究したい」という学生自身の主体性を最も重視し、実際の臨床疾患を対象に、世界最先端の分子病態研究に取り組みながら、学会発表・論文発表を目指します。「難病の原因を解明したい」「研究発表したい」といった高い志を持つ学生の参加を歓迎します。学業や部活動の合間を活用し、現在も9名の学部生が各自の研究テーマに取り組み、学会発表を経験しています。

II. 受入可能人数

1名（1年生・2年生対象）2年次後期以降は医学研究実習・研究室配属にて分子病態研究室での研究に継続。

III. 担当教員

小川分子病態研究室長が研究・実験の指導を行う。研究領域に応じ、整形外科・消化器内科・皮膚科・心臓・血管内科/循環器内科等の臨床教室と連携し、研究指導を行う。

IV. 学習内容

本学における実際の臨床課題を出発点として、各自興味のある疾患や臓器から研究テーマを決定し、生体組織の研究法を学ぶ。学生の間で学会発表や論文執筆を行うための準備を始める。

令和8年度 講義・実習内容

- ・具体的な形式や授業の進め方：基本的に実験形式の研究実習となる。必要に応じ座学形式の面談、講義、調査、論文解読、プレゼンテーションの練習等を行う。
- ・実施スケジュール：参加学生と相談の上で日時を決定する。期間内に12コマ実施する。試験や部活動との兼ね合いも十分に考慮する。
- ・求められる姿勢：自ら実験する積極性・自主性・忍耐力・真摯な姿勢・コミュニケーション力を必要とする。
- ・自主学習の内容：実験ノートの整理など。
- ・担当教員とディスカッションし、研究テーマを設定し、研究実習を行う。テーマ設定や研究成果発表に際し、対象疾患分野の臨床教授とのディスカッションを行う。
- ・研究する生体試料（脳、血管、皮膚、消化器など）の観察、分子イメージング解析
- ・臨床疾患周辺の情報収集、研究テーマの設定
- ・英語による学会発表・論文執筆への準備
(学会発表・論文発表には、本科履修後に研究室配属として別途時間を要する。)

V. 学修の到達目標

- ・生体組織試料をマクロ・ミクロ・分子のレベルで観察し、解剖学や生化学との関連や、統合的な理解を行う。
- ・実際の臨床課題周辺の研究報告を調査し、原因究明に向けた研究テーマの設定を行う。
- ・質量顕微鏡をはじめとする分子イメージング技術や理論を学ぶ。
- ・将来、難病の原因を解明する医師となるために、研究の技術を学ぶ。
- ・学生の間で学会発表・論文執筆へ向けた準備を始めることができる。

VI. 成績評価の方法・基準

実習（12コマ）への参加割合、理解度、プレゼンテーションの項目についてルーブリック評価表により行う。試験は行わない。実習への参加（50%）、プレゼンテーション（50%）

Ⅶ. 使用する教材・資料など

指定しない。随時、解剖学や生化学等の教科書・参考書を使用する。別途購入する必要は無い。

Ⅷ. 質問への対応方法

メールアドレス：t-ogawa700@dokkyomed.ac.jp

- ・ 質問・訪問・面談はメールで連絡してください。
- ・ 科目登録前に、メール連絡の上で必ず面談に来て下さい。

Ⅸ. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

- ・ 事前学習：関心のある臓器や疾患について自分の興味を整理しておく。既習の場合は解剖学概論・組織学総論を復習しておくが良い（2時間程度）。
- ・ 事後学習：随時、実験結果の整理（1時間程度）。論文執筆に向けて解剖学アトラスなどで復習し、データ整理・図の作成・本文執筆などを行う（本コース終了後に研究室配属して実施）。

X. コアカリ記号・番号

LL-01-02, RE-01, RE-02, RE-03, RE-04, RE-05, PS-01, PS-02, IT-01

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションは講評・添削を行う。レポート・論文は随時添削を行う。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎